

福井県におけるヒラズゲンセイの初記録

斎藤 昌弘*, 小泉 博美**, 梅村 信哉***

The first record of *Synhoria maxillosa* (Fabricius) from Fukui Prefecture.

Masahiro SAITO*, Hiromi KOIZUMI**, Shinya UMEMURA***

(要旨) 2023年7月4日に大飯郡おおい町大島においてヒラズゲンセイが福井県からは初めて確認された。

キーワード：ヒラズゲンセイ, 初記録, 若狭

ヒラズゲンセイ *Synhoria maxillosa* (Fabricius) はコウチュウ目ツチハンミョウ科 (Coleoptera: Meloidae) に属し、国内の甲虫類の中では大型の種類である。幼虫は本州ではキムネクマバチ *Xylocopa appendiculata* の巣に寄生することが知られ、成虫は5~8月に現れる (杉浦・郷原, 1996)。赤く目立つ昆虫でありながら、活発に活動しないために発見される機会が少ない。本種は南方系の種類であり、従来九州や四国南部で分布が知られていたが、近年国内で分布を拡大させ、2000年代には近畿地方各地で確認されるようになった (初宿, 2008)。最近では、滋賀県南部でも本種が確認されていた (初宿, 2022)。

福井県内においては、福井新聞2023年7月18日に“赤いクワガタムシ”と題して、初めて発見されたと報道された。本稿では、この報道に基づき、県内における本種の初記録として報告する。



図1. ヒラズゲンセイ *Synhoria maxillosa*

ヒラズゲンセイ *Synhoria maxillosa* (Fabricius)

大飯郡おおい町大島, 1♂, 4.VII.2023,

小泉博美撮影 (図1)

第二著者の小泉が自宅の庭の菊の葉の上に静止していたものを見つけ撮影した。本個体はその後、2, 3日は撮影場所の周辺で確認されたが、その後見られなくなった。7月23日に現地を斎藤が確認したが、追加個体は得られなかった。本種は山地帯には生息せず、おそらく近年になって京都府北部から平地~低山地を經由して県内に侵入してきたと推測される。

本稿を作成するに当たり、ヒラズゲンセイの分布拡大に関する資料をご教示・提供頂いた初宿成彦氏 (元大阪府立自然史博物館) に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 初宿成彦, 2008, ヒラズゲンセイの温暖化による北上と生活史. 昆虫と自然, 43(12), 9-12.
初宿成彦, 2022, 近畿におけるヒラズゲンセイの分布拡大: 市民科学による調査として (鞘翅目: ツチハンミョウ科). 初宿成彦さん退職記念論文集・編集委員会編, 初宿成彦さん退職記念論文集, 窓舎舎, 389-396.
杉浦直人・郷原匡史, 1996, キムネクマバチの天敵, ヒラズゲンセイの生活史. インセクトリウム, 33(8), 18-22.

*〒913-0016 福井県坂井市三国町三国東4丁目3-23-115

*3-23-115, Mikunihigashi 4-chome, Mikuni-cho, Sakai City, Fukui 913-0016, Japan

**〒919-2101 福井県大飯郡おおい町大島82-24-1

**82-24-1, Oshima, Oi-cho, Oi-gun, Fukui 919-2101, Japan

***福井市立自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

***Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006

